



逍遙公園の池の埋め立てについて



30代・女性

5月の議会だよりで、公園の池が埋め立てられることを知り、とても残念に思いました。あの池には、アメンボや小さな魚、エビ、貝、オタマジャクシ、秋には美しいトンボなど、多くの生物が生息しており、毎年子どもと一緒に観

察するのを楽しみにしていました。数週間ごとに池を訪れ、オタマジャクシに足が生え、手が生え、昨年はついにカエルの観察に至り、今年初めてカエルの卵の中で、今まさに生まれそうに動くオタマジャクシや、ある程度大きくなったオタマジャクシなど、たくさん観察することができ、私たちはもちろん、公園を訪れた大人も子どもも見入っていました。

町の現状は理解しているつもりです。人を呼び、経済を活性化させるためには仕方がないものとして、計画自体に強く反対するものではありません。季節によっては汚れも目立つため、管理も大変だったと思います。子どもたちも、遊べる川になった方が喜ぶのかもしれない。ただ、公園という比較的安全で人が集まる場所で、多くの自然の水の生き物を観察できるといのは、町外も含め、なかなか無いのではないかと思います。自然との触れ合いというのは町の大きな強みだと感じています。あの場所を楽しみにしていた人がいるということを知ったとき、驚き、あそこが生息している生き物たちはどうなってしまうのかを考えると、とても心配しています。

うのかを考えてほしいのです。ぜひ、小さい面積でも、あの生き物たちを保護しておける場所を作ってください。どうしても無理ならば、近くで同様の生物の観察に適した場所を紹介いただきたいです。教科書やタブレットの学習だけが勉強ではなく、身近なものとの触れ合いや遊びの中で「ふるさと」の印象は作られるのではないかと思います。

お答えします

逍遙公園の池は、昭和61年の逍遙公園開園以来、長年にわたり町民の皆さんに親しまれてきました。ご承知のとおり近年は、池に流れ込む水の沈殿物や公園内の樹木からの落葉が沈殿して腐葉土化した泥が堆積し、堆積物が増加したことによって水草が繁殖し、水の流れが阻害され、特に夏場は水がよどんで景観を損ねている状況になりました。

町としては池への水の流入量を確保すべく、水源となる取水施設の清掃や池の一部で水遊びができ

ックの一部が階段状になっており、降りて小魚や昆虫を観察できるようになっています。また、東山公園や乳呑自然公園、馬主来自然公園は、それぞれ特徴があり、白糠の自然を体験できる公園ですので、こちらもご利用くださいますようお願いいたします。

〈建設課〉

津波発生時の避難路について



40代・男性

津波発生時の避難路として、国道38号と工業団地海側の道をつなぐ道路を作るようですが、釧路空港方面の山へ避難するためには、工業団地山側のトラックがすれ違える程度の狭い道を使うしかありません。

避難しやすくするために、富留川3号橋から恋問自然観察公園を縦断して、工業団地海側の道に抜ける道路の整備を検討してはどうでしょうか。

いざという時に避難しやすいだけでなく、平時でも現状では放置に近い状態で使われていない自然

観察公園の再利用にもつながると思います。自然観察公園に道を作るのが難しいというのであれば、縦断する道路と一緒に太陽光パネルを屋根代わりとする「避難タワー兼簡易展望タワー」も作つたらいいと思います。売電収入で気長にタワー建設費を回収できるし、避難時には自立して電気を使うこともできると思います。

お答えします

釧路白糠工業団地に並行する国道38号は、超巨大地震による津波発生により大部分が浸水すると想定されています。

町が東日本大震災から学んだ最大の教訓は「より早く、より高いところ、遠いところ」へ避難し、「命を守る」ことです。

この地域を通行する車両がいち早く津波から避難するためには、町が指定する町道釧路空港短絡線中腹の津波一時避難場所に避難する必要がありますが、白糠町側と釧路市側の既存の踏み切りを迂回すると、この間の距離は約6・4kmあります。

そのため町は、一刻を争う避難



釧路空港へとつながる富留川3号橋

経路として十分な経路を確保するため、現在、恋問館近くのJR根室本線に新たに踏み切りを設置する協議を関係機関と進めています。今回「釧路白糠工業団地海側から恋問自然観察公園を縦断して、さらに北へ抜ける道路を整備してはどうか」との提案をいただきました。最短で北上できる経路についても併せて検討していますが、工事費用・期間・用地等も含め関係機関との調整に時間を要することから、踏み切りの新設を最優先で取り進めています。

また、太陽光パネルを併設した「避難タワー兼簡易展望タワー」の整備ですが、町は津波避難につ



逍遙公園の池

るように改修してきたところですが、このような現状から、親水公園として池を改修し、人工の小川を作り、子どもたちが安全に安心して水遊びができて、また、周囲に草木を植えて小川の周辺が昆虫などのすみかになるような施設の整備を考えているところです。

現在のような昆虫や小魚などのすみかになるには時間がかかると思いますが、親子が触れ合い、子どもたちが集まってくれるようなより良い施設にリニューアルする計画ですのでご理解ください。

昆虫などの生き物を観察できる場所については、逍遙公園の中央を流れるオクネツ川護岸プロジェクトです。今後は関係機関と協議をしながら、新たな避難経路の選定と併せて自然観察公園の利活用も視野に入れて検討していくこととしていきますので、ご理解をお願いします。

〈企画財政課〉

道の駅「しらぬか恋問」の移転について



30代・男性

道の駅「しらぬか恋問」の移転について大変関心を持っています。2050年までの脱炭素化による地域社会の変化、長期的な人口減少と高齢化社会、コープさっぽろ白糠店閉店の検討など、町内を取り巻く環境の変化や財政の硬直化が予想される中、今回の道の駅の移転が持つ役割は重要だと思っています。

観光が主目的の現状から、町内の交流・情報発信の拠点へ役割を変更する必要があると思います。